

神奈川県立平塚江南高等学校における学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した

審議会 名称	神奈川県立平塚江南高等学校 令和7年度 第3回学校運営協議会
開催日時	令和8年3月14日(土) 13:30~15:00
開催場所	神奈川県立平塚江南高等学校 会議室
[役職名] 出席者	[委員] 宍戸 章子(会長) 山崎 幸子 香取 祐亮 鈴木 奏到 齋藤 弘 矢野 二三代 逸見 育磨(副会長、平塚江南高等学校長) [事務局] 岩崎 幸代(副校長)、佐藤 竜太(教頭)、今福 聡(事務長)、 島川 淳(総括教諭)、小坂 宏之(総括教諭)、植田 渥士(総括教諭)、 濱口 学士(総括教諭)、大谷 千鶴(総括教諭)
欠席者	なし
資料	令和7年度学校評価報告書(実施結果) 令和8年度学校評価報告書(目標設定) 生徒による授業評価アンケート結果 令和7年度SSH事業及び関連行事等一覧 魅力と特色アンケート結果 広報活動状況報告書 令和7年度第2回学校運営協議会議事録 令和8年度年間行事予定
	開会 1 校長あいさつ [逸見校長] 第2回(12月13日)開催以降の学校の状況について報告する。 冬季休業中、SSHプロジェクトの一環として台湾研修を実施した。11名の生徒が参加し、台湾の林口高級中学校での授業参加や台湾国立大学での英語による研究発表を行った。英語でのコミュニケーションに苦労する場面も見られたが、生徒の成長が著しく、有意義な活動であった。 3年生については大学受験が無事に終了した。また、3月6日の卒業式では308名の卒業生を送り出した。 入学者選抜については、志願変更等を経て最終的な志願者数は373名、倍率は1.14倍であった。昨年度の1.37倍と比較すると低下したが、これは公立高校全体の傾向や地域的な要因も影響している。今後、より魅力ある学校づくりに努めたい。

現在は年度末の成績処理や、生徒の進級判定、球技大会等で多忙な時期である。本日は学校評価報告書の実施結果について報告し、委員の皆様から総括的な意見を頂戴したい。

2 学校運営協議会の開会にあたって

[事務局] 第2回学校運営協議会(12月13日)の協議の概要確認をする。「令和7年度学校評価報告書(中間報告)」を示し、学校目標の進捗状況及び課題について、5つの視点について教頭、事務長、及び総括教諭から説明し、それらについて委員の皆様からご意見をいただいた。次に植田総括教諭からSSH及び授業改善についての取組について説明をした。続いて、事務長から学校予算の執行状況の説明をした。本日はその実施結果に基づき協議を行う。

3 報告事項

(1) 生徒による授業評価アンケート結果

[植田総括教諭] 「令和7年生徒による授業評価アンケート(1月実施)」結果について。学校目標の指標である「単元の学習の中で課題について自分の考えをまとめ、解決方法を考える場面がある」という設問に対し、肯定的な回答が51.3%となった。例年50%の目標を達成できずにいたが、私が関わってからは初めて目標を上回った。後期に向けた意識付けが功を奏したと考えている。一方で、教科によって回答数にばらつきがあるため、来年度は回答の徹底を促す必要がある。

(2) SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業の取り組み

[植田総括教諭] 今年度は外部連携や研究開発グループによる行事を精力的に実施した。直近では、横須賀、厚木、希望ヶ丘等の他校SSH発表会に本校2年生がポスター発表で参加した。また、神奈川探究フォーラムの参加や1・2年生の成果発表会も予定している。平塚市博物館では3年生の探究ポスター優秀作品(約26点)を4月19日まで展示しており、新入生にも案内する予定である。

国際交流では、ハーバード・MITへの海外研修(リーダー養成プログラム)に生徒が志願しているほか、神奈川県友好地域高校生派遣事業において、本校2年生(女子1名)がメリーランド州へ派遣されることが決定した。これらの学びは入学式後の対面式で全校生徒に報告する。外へ出る意欲を持つ生徒が増えており、昨年度比で約1.5倍の生徒が動いている。

(3) 学校の魅力・特色アンケート結果

[佐藤教頭] 卒業予定の3年生を対象とした県共通のアンケート結果を報告する。学校生活全般の満足度は90%を超え、部活動や学校行事についても高い満足度が得られている。保護者の満足度も95%と高い。しかし、回答数が極めて少なく、生徒は17.5%（54名）、保護者は29%（92名）に留まった。これは県の電子申請システムの締め切りが2月いっぱいであるという運用上の問題も影響している。データの信憑性に関わるため、次年度は発信時期や締め切り設定を工夫し、回答率向上に努める。

[鈴木委員] 同窓会ホームページでも博物館でのSSHの成果展示を周知している。非常にレベルが高く、大学の卒論に近いまとめもあるとの評価を得ている。

4 協議事項

(1) 令和7年度学校評価報告書実施結果および視点別協議

【視点1：教育課程 学習指導】

[植田総括教諭] 授業評価の最終数値は51.3%となり目標を達成した。12月には全時間公開の研究授業を実施し、授業改善部会からも助言を得た。課題として、資質・能力の測定や組織的な授業改善が十分に機能していない面がある。来年度からは探究的な学びを推進する組織体制や職員研修を強化することで職員会議の合意を得ており、4月から新体制で始動する。

[山崎委員] 公開授業の振り返りやアンケート結果を改善に繋げる組織文化が重要である。アンケート回答率の低さは、目標共有や「答えたくなる仕掛け」の弱さにあるのではないか。試行錯誤を継続してほしい。

【視点2：生徒指導・支援】

[佐藤教頭（森下総括教諭に代わり）] スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）を活用し、外部機関や児童相談所とも連携している。親子関係の悩みを持つ保護者への支援も必要であり、組織的な教育相談の充実が求められる。

交通マナーについては、PTAによる啓発看板設置や継続的な注意喚起により、後期は苦情件数が減少した。

部活動では、技術以前の人間関係の構築に課題が見られるケースがある。教員間での情報共有を徹底し、速やかな解決を目指す。

[矢野委員] 親子関係の問題が学校生活や友人関係に波及するケースは多い。本人が抱え込まず、周囲が発見できる体制が重要である。

[山崎委員] 「誰一人取り残されない」という公立学校の役割を重視すべきだ。地域資源や行事を通じて生徒の居場所を作ることが、心と体の健康、そして学びの意欲に繋がる。

[穴戸会長] 部活動のトラブルに対し、生徒が自ら「部活動停止」などの厳しい制限を課そうとする場合があるが、懲罰主義に陥らぬよう、事実の確認や対話を重視する態度を育む指導をお願いしたい。

【視点3：進路指導・支援】

[島川総括教諭] 現時点での速報だが、現役生では東京科学大学（旧東工大・医科歯科大）2名、東京外国語大学1名などの合格が出ている。既卒生が健闘しており、国立大学医学部（福井大、信州大）2名、私立医学部、北海道大、名古屋大などの合格が報告されている。

近年の傾向として、共通テストを区切りに年内で入試を終えたいと考える生徒が増加している。大学側も東北大学が2050年までに一般入試の全面廃止を掲げるなど変化している。東大の「カレッジ・オブ・デザイン」新設など、入試形態の多様化が進む一方で、数学などの二次試験は難化傾向にあり、学力層による差が顕著になっている。基礎学力の定着に加え、思考力・応用力を問う難解な入試問題に対応できる力をどう養うかが課題である。

[鈴木委員] 点数を取る技術だけでなく、社会で求められる「答えのない問い」を組み立てる力を養うべきだ。体育祭のパフォーマンスなどの企画力・創造力は、長期的には重要な進路支援となる。

[穴戸会長] 進路実績が出た段階で、学校目標である「最後まで諦めない姿勢」がいかにか結果に結びついたかを分析し、報告書に反映させてほしい。

【視点4：地域との協働】

[大谷総括教諭] 防災教室をアクティビティを伴う内容に改善した結果、生徒の地域貢献意識に肯定的な変化が見られた。生徒には「守られる立場」から「支援する立場」への意識変容を促している。平塚の地域特性を理解し、将来どこで活動するにしてもその地域に貢献できる視点を育てたい。

[香取委員] 行政としても協力したい。有事の際、津波の到達範囲などの基礎知識を身につけることはとても重要だ。また、生徒が避難所開設に協力してくれることは、高齢化が進む地域にとってありがたい。

[齋藤委員] 地域の避難所運営において、高校生力は非常に頼りにされている。また、体育祭の仮装などの映像を（著作権に配慮しつつ）SNS等で発信することは、学校の魅力を伝える上で有効である。

[鈴木委員] 地域の次世代まちづくりセミナーに江南の生徒が参加し、他校生を交流する機会があった。地域の行事にマンパワーとして参加するだけでなく、企画段階からかわることで応用力の育成や自己PRにもつながる。同窓会としても、地域（小中学校）のネットワークを活用した魅力発信や、生徒のモチベーション向上に協力したい。

【視点5：学校管理 運営】

[佐藤教頭] 企画会議での事故防止会議をもとに、各グループで不祥事防止研修を行うことをサイクル化している。各グループでの実施状況を共有することで啓発が進んでいる。来年度は非常勤講師も含めた全職員研修を実施し、不祥事ゼロを徹底する。

[大谷総括教諭] 広報活動について、今年度は初めて1年間の広報活動の総括を行った。来場者数やアンケート結果、入試倍率の推移分析を行い、入試倍率が高かった1年生を対象に本校の魅力を探るアンケートも行った。この総を全職員で共有し、次年度の取組全般に生かせるようにした。1年生によると本校を選んだ理由は学力レベルと立地（湘南地域からのアクセス）にある。また中学生の知りたい情報は、行事、校則、修学旅行など「具体的な高校生活のイメージ」にある。中学生の希望と、本校が望む生徒像をマッチさせるため、本校の取組を充実させるとともに情報発信に努める。

[山崎委員] 私立への流出が懸念されるが、上位層については依然として公立志向がある。夏の学校説明会が決定打になるため、授業の面白さを中心とした魅力発信が重要だ。口コミの力も大きいいため、在校生が「面白い」と言える学校づくりが広報の要となる。

〈協議および要望〉

[香取委員] 避難所としての機能を考慮し、災害時にスマートフォン等の充電ができる設備を県の予算や基金で整備してほしい。

[穴戸会長] 魅力・特色アンケートの締め切りについて、卒業式後の保護者の意見も反映できるよう、設定を遅らせるなどの柔軟な運用を教育委員会に要望したい。

[鈴木委員] かつてのドリームチャレンジのような同窓会からの金銭的支援（旅費補助等）については、公立学校の資産管理や寄付のルール壁がある。しかし、生徒の挑戦を後押ししたい気持ちは強く、運用ルールの明確化や柔軟な対応を検討したい。

(2) 令和8年度学校評価報告書(目標設定)について

[事務局] 令和8年度の学校評価報告書(目標設定)案について、今回の協議を踏まえ、組織改善や分析成果の反映を盛り込んでいく。

[逸見校長] 今年度3回の協議会を通じて多大な支援をいただいた。小・中・高校の縦の繋がり、地域の横の繋がりを再認識した。生徒一人ひとりを大切に、授業・行事・部活動の充実を図ることで、魅力ある江南高校を築いていく。

閉会